石油化学工業協会

２０２５年９月実績概要（メモ）

（２０２５．１０．２３）

原料エチレン等の増加に沿って、各誘導品の生産も増産品目が揃いつつある。

１．生　産　動　向

イ）エチレン　４３０，８００トン

前　月　比　　＋　３．０％（＋１２，７００トン）
前年同月比　　＋１０．６％（＋４１，１００トン）

生産増減に係る諸要因	＜前　月　比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲ ３．２　％	－
定修要因等	＋ ９．９　％	＋１４．５　％
能力増減	－	－
稼働率変動	▲ ３．７　％	▲　３．９　％
生産増減率	＋ ３．０　％	＋１０．６　％

稼働プラントの実質稼働率試算：前月８０．２%* → 当月７７．６％ ← 前年同月８０．２％
定修プラント：前月　１社１プラント　→ 当月　なし　← 前年同月　１社１プラント

ロ）主な石油化学製品

前月比は、日数減があるものの定修規模差等から、HDPE、PP、PS、塩ビモノマー、MMA モノマー、BR、トルエンなどの１０品目がプラス。LDPE、SBR などの７品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等から、LDPE、PS、SM、MMA モノマー、EG、AN などの１３品目がプラス。HDPE などの４品目はマイナスとなった。

２．樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ）生　　産

前月比は、LDPE は日数減と定修規模の増加からマイナス。HDPE、PP、PS は日数減があるものの、定修規模の縮小や稼働率要因からプラスとなった。

前年比は、HDPE は定修規模差等からマイナス。LDPE、PP は主に定修規模差、PS は稼働率要因からそれぞれプラスとなった。

ロ）国内出荷

消費のマインドは、暮らし向きや雇用環境で、前月と同様に持ち直しの動きが弱いながらも続いている。国内産業の生産は夏場かけて落ち込みが見られた。9 月の予測では輸送機械の落ち込みに対し、石油製品、電気・情報通信分野での伸びが見込まれているが、トレンドとしてはやや弱含みの動きが見られている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、夏季休暇明け後、ユーザー産業の稼働日数増も相まって、LDPE、HDPE、PP、PS ともに大幅なプラスとなった。前年比は、前年の出荷がやや低迷したため、４樹脂ともに前年を上回る出荷に落ち着いた。

分野別の出荷状況は、フィルム等の包材分野は、LDPE、PS が前年を僅かに上回った。包材以外の分野では、LDPE の加工紙分野、HDPE の中空成形分野、PP の射出成形分野、PS の雑貨・産業分野等で前年を上回る出荷が見られた。

ハ）輸　　出

中国では長引く不動産不況や貿易摩擦の影響に伴い、個人消費の鈍化とともに企業の生産も伸び悩みを見せている。汎用樹脂の輸出も数量ベースでは低位に推移しており、伸び率では、前月比は、HDPE、PP、PS がプラスとなったが、前年比では LDPE、HDPE、PP、PS ともにマイナスとなった。

ニ）在　　庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP は減少、HDPE、PS はやや増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE は横這い、HDPE、PP は低下、PS は僅かに上昇した。在庫水準としては、LDPE は高め、HDPE は極めて高め、PP、PS は高め状態が薄らぎつつある。

	前月対比増減量（単位:トン）	季節調整済在庫率（単位:ヶ月）	
		８月末	９月末
LDPE	▲１７，４００	３．５	３．５
HDPE	＋　１，７００	４．４	３．９
P　P	▲　８，２００	３．４	３．０
P　S	＋　５，４００	２．０	２．１

前月からの修正を*で付記

以　上